講　　演

「アメリカのコミュニティ・カレッジ役割と地域との関わり」

講師：聖徳大学学長補佐・教授　　ジョイス津野田幸子

皆様こんにちは。ご紹介を受けましたジョイス津野田でございます。私は現在、聖徳大学で英語教育に関わっています。聖徳大学はご挨拶を大事にする事を守っていますので、私が担当している英会話の授業でも、学生達と一緒に英語のごあいさつで授業を始め、授業終了は英語のご挨拶でしめます。午前でしたら“Good morning”、午後でしたら“Good afternoon、 let us learning together、一緒に学び合いましょうね”というご挨拶で、授業を始めます。授業の終わりでは、"Thank you and Aloha!"でしめます。

今日の研究会では授業ではありませんが、皆様と一緒に学び合う事が出来たら嬉しいと思います。さて、お話を始める前に、2 点ご了承いただきたいことがあります。一つはもうお聞きになってお分かりになると思いますが、私の日本語力の未熟さです。自分は 10 歳にハワイに渡り、60 年近くネイティブ・アメリカンとして生活をしてきましたので、こういう専門的な講演を日本語で行なうというのは、本当に難しいことです。すぐ英語がとび出したり、聞きにくい日本語が出てしまうかもしれませんけれど、ご了承いただきたいと思います。もう一つの点は、私の講演の目的は日本の短期大学のあり方に、いろいろ指示するつもりはありません。ただ、アメリカのコミュニティ・カレッジズとは何か、本質は何か、そしてそれを中核とする使命は何かをということを自分の４０年近くの経験を基として説明をさせていただいて、ご理解をいただきたいと思います。

「アメリカン・コミュニティ・カレッジの使命」（Slide 2）

「*人々は､同等の能力を持っているのではない。しかし、各人はその能力を最大に高め、伸ばす権利を持っている。Not all people have a same talents and abilities' but , each person has the right to extend his talent to the fullest.*」この言葉は私が尊敬する元大統領、ジョン・F・ケネディの言葉です。この言葉は、「機会提供」を使命とした、アメリカのコミュニティ・カレッジの建学の原則に基づいています。そしてこの「機会」という言葉の意味は、アメリカの高等教育は一人ひとりのニーズと才能にあった学びの機会があるということを示しています。

「アメリカの高等教育システム：カーネギー分類法」（Slide 3）

アメリカでは高等教育、（higher education）には、学位を授与し、正式に認可されたカレッジズ・大学が存在します。現在（2010 年期）の情報データによると、4,634 校が高等教育機関(higher educational institutions)として認められています。そこで各 4,634 機関はカーネギー分類法によって授与する学位について、いくつかのタイプに分けられています. その中で 2 年制準学士号授与の機関は 1,714 校となっていまして、これらが全高等教育機関数の 37%を占め、そうして全入学者数も 37%となっています。ご承知と思いますが、アメリカには全国家の教育を統括する文部省庁は存在しません。教育についての責任は州及び都、市、地方にゆだねられております。

「公立２年制機関：アメリカン・コミュニティ・カレッジ」（Slide 4）

ここで 2 年制カレッジズに注目しますと、公立二年制度カレッジズ(public two-year colleges)が 1,714 校の中の 1,032 校(60.2%)を占めています。この公立 2 年制カレッジが一般的にコミュニティ・カレッジズと呼ばれています。その他にこのカテゴリーには、私立 2 年制度の営利機関(for-profit colleges) と非営利機関(not-for-profit colleges)に分かれています。

「アメリカのコミュニティ・カレッジの歴史」（Slide 5）

コミュニティ・カレッジズという教育制度がアメリカン社会に導入されたのはほぼ最近のことです。

第2次世界戦争直後、当時のアメリカの大統領、Harry S. Truman、が 1948 年に Blue Ribbon Commission、ブルーリボン委員会を指名して、当時アメリカ国が戦後の荒廃から立ち直るにはどうすれば良いかということの進言を纏めするように命じました。そのブルーリボン委員会の最も重要な進言は、「*安い授業料で、通学に便利で、高校以上の教育と訓練を受けたいと望む人は誰でも歓迎するという方針をもった、2 年制のカレッジをそれぞれの州に設立すること*」でした。Truman 委員会はその2年制のカレッジズが位置する地域の人々のニーズに応えるプログラムを提供することもあわせて進言しました。これらのカレッジズは、その地域社会、コミュニティのカレッジでなければならないと委員会は言明しました。それで、この委員会の言明の「Community's College、コミュニティのカレッジ」から「Community College」と呼ばれるようになったと言われています。この Truman 委員会の進言に基づいて、1950 年、60 年代はアメリカのコミュニティ・カレッジの急速な誕生および成長の時代でした。

「ハワイのコミュニティ・カレッジ」（Slide 6）

1959 年に 50 番目の州となったハワイでも 1965 年に州議会の立法によってハワイ大学の一部としてコミュニティ・カレッジズが設立され、ハワイ大学 は10校のキャンパスが存在する州立の総合高等教育制度、University of Hawaii System, となりました。その中で3校は4年制の大学、7 校はコミュニティ・カレッジズです。現在ハワイのコミュニティ・カレッジズ、7 校の合計履修者数は全ハワイ大学システムの学生数 56-57%を占めています。この合計学生数には、マノア校、ヒロ校の大学院履修者の数も含まれていますので、学部のみの数では、コミュニティ・カレッジの役割がおおよそ 60%になっています。

「教育使命の重要性と主要な役割」（Slide 7）

申しあげましたように、コミュニティ・カレッジズは OPEN DOOR、無試験入学、という基本的な理念に基づいて設立されました。これは、入学試験なしで 18 歳以上か高校卒業の資格さえあれば、だれでも入学できるという理念です。そこで、この教育使命を実際に履行するためには、コミュニティ・カレッジズ全体の制度、例えば方針、役割、活動などが、いくつかの共通的な基本構成要素(basic building blocks)を基礎として設立されています。その基本的な basic building blocks と言いますと、一つは機会提供(Access)、もう一つは学習者中心(Learner focused)、そうして地域密着性(Community-based)、学生の選択権(Student choice options)ということです。

学生の選択権には転入学（transfer）および移動(mobility)、例えば専攻変更や履修先の機関変更も認められています。このためにはカリキュラム調整・単位互換（curricular articulation）などのアカデミック・ポリシーが必要です。その他にも学位取得のための選択肢（alternative pathways to degrees）というポリシーもあります。

ここでお伝えしたい重要な点は、カレッジへの入学が許可されていても、必ず誰でもが特定の課程に入ることはできません。その特定な課程の定員数や特定の受け入れの条件によって入れないことがあります。それで全入学者は入学後、大学標準(collegiate level)の数学、及び英語、読み書きの能力を持っているかどうかを確かめるための、placement test を受けなければいけません。それで大学 level に達していない学生には指導教育・補習教育(remedial education)を受けることが義務付けとなっております。それで補習教育 remedial education も一つの building blocks となります。こういう教育システムですので、2 年制度の課程でも、3 年～5 年間かかって修了する履修者も少なくありません。

アメリカの高等教育の一部であるコミュニティ・カレッジズは「Open Door 教育」という理想的な創立理念を実行可能にするために全国一貫的な努力をかけ続けています。

「バランスが取れた教育使命の実践」（Slide 8）

アメリカの高等教育分野に属するコミュニティ・カレッジズは入学志願者に対して門戸を開放しており、入学試験無しで進学できるシステムであるため、教員は適切学問及び専門資格を持つと共に多様なバックグラウンドと能力を持つ学生達を対象に指導し、励まし、サポートしながら、彼ら

に高等教育 level の授業を与えるという意志、能力と覚悟を持つ教育者ではなければなりません。いろいろな問題、難題にぶつかり、困難な教育チャレンジを受けている教育者仲間同士でもあります。ハワイで一緒に活躍していた教職員達と私はいつもお互いに励ましあう言葉は“We have the most difficult but most important job in higher education. Not just anyone can do this well. Let us take pride in our special role. 我々は高等教育での一番難しい、誰でもできない、最とも大切な責任、役割を受けているのですね。がんばりましょう！”

『バランスを取る』いうことは何かといいますと、学究の徒が集まる高等教育分野では教員に対して3つの職業的責任(professional expectation)を遂行することを伝統的にもとめられています。この職業的責任とは、一つは教える事(Teaching)、もう一つは研究する事（Research)、もう一つは社会貢献（Service）です。この3つ職業責任のバランスをとりながら活躍し、自分の役割を果たすということが、コミュニティ・カレッジズの教員の使命にもあります。コミュニティ・カレッジズに所属する教員には、この3つの職業的責任の中で教えること、授業中心主義、が重視されております。とりわけコミュニティ・カレッジズの教員は Teaching scholar への従事を奨励されて、それがまた評価対象にも繋がっています。

皆さまはこの scholarship of teaching という言葉をお聞きになったと思います。私にとっては、この言葉の日本語訳が本当に難しいと思います。何人かの日本の先生たちに相談いたしましたところ、「scholarship of teaching」の訳は「教育者の学識」などと答えられました。けれど、私は何とかその和訳が英語の「scholarship of teaching」の本音と心が入っていないと感じます。とりあえず、この言葉はカーネギー教育振興財団の理事長の故アーネスト・ボイヤー博士が、1980 年代にアメリカの高等教育の現場に紹介されて広く受け取れました。ボイヤー氏はカリフォルニア大学バークリー校博士のパチューシャ・K・クロス教授と一緒にアメリカの高等教育全体において、優れた教育指導「teaching」の重要さを説明し奨励されていらっしゃいました。このお二人は、私の最も大事な友人であり、尊敬した師(mentor)でした。お二人は何度かハワイに足を運んでくださって、ハワイコミュニティ・カレッジの教員指導 FD に力を入れて下さいました。

ボイヤー氏が残して下さった発言の一つは下記の言葉です。

「*コミュニティ・カレッジのすべての教員が、執筆業も行う研究者ではないが、各員は献身的な学究の徒であるべきで、ここには技術及び実践教育に携わる者も含まれている。しかしこれが実的目標であるためには、学識の意味を広げなければならない。We must expand the meaning of scholarship. 学識（scholarship）とは研究を通した知識の発展という学識以外にも、カリキュラム発展を通した知識の統合、世の中に貢献するための知識の応用という学識、**そして特に、効果的な教授法を通した知識の提供(teaching)という学識を認識することが重要である。これらがコミュニティ・カレッジについて、極めて重要な部分である。***」

パチュリシァー・クロス教授が主張されていたのは、教員が最も効果的であるためには、授業が行われている現場においても、自分の授業の評価ができる授業の研究者(teaching researcher)とみなされる必要があるということでした。実際に授業の評価をするというこのアプローチにより、教員は自分の授業方法と学生の学習内容の関連が明確になる。その結果は、教室そのものが教育と研究両方ができる環境となることと、私たちに教えて下さっていました。

「コミュニティの定義」（Slide 10）

“The Community”とはその地域社会に存在する多様な利害関係者(Stakeholders)と呼ばれています。「コミュニティ」とは、地域そのもの、そこで暮らし、働いている人たち、そこに存在する企業、産業、組織、団体といろいろな意味が含まれています。

ここで Stakeholders の中の一例として「学習者」に付いて説明いたします。アメリカでは「学習者」は Learners という言葉をよく使います。Learners とは入学試験を合格した入学者に限られず、学びたいと願うすべての人々が Learners だと私達は受けています。Learners, その家族も、カレッジズが対象とするステイクホルダーです。

もう一つのステイクホルダーは企業・産業ですが、これらは雇用者としての他に、カレッジの教

育やサービスの利用者として最も教育に関するパートナーとしての繋がりです。
そして地域のあらゆる組織団体、例えば経済関係・行政・宗教・スポーツ・ボランティア関連の組織も主となるステイクホルダーです。その中でも大切なコミュニティは他の教育機関、例えば他のカレッジ、大学、学校、その他には教育サービスの提供者もあります。
主に公立のコミュニティ・カレッジズに大切なステイクホルダーは 納税者(Tax-payers)もあり、政治家、資金提供者も含まれます。

ここで個人的なお話になります。私が初めてコミュニティ・カレッジの教員として踏み出したのは 1968 年の秋、ハワイ州で一番新しいコミュニティ・カレッジ、リーワード・コミュニティ・カレッジでした。当時、ホノルル市から離れて、サトウキビやパイナップル・プランテーションの村や町が散在しているオアフ島の中部地、そして西海岸地と北海岸地には、当時高等教育の手は届いていませんでした。ただし将来は、この地域が州の主な住宅地になることを期待して、州議会が新しい教育機関、ハワイコミュニティ・カレッジズをハワイ大学の一部として設立することを決めました、それで真珠湾の西海岸の岸にある Pearl City という小さな町で、1968 年 9 月に、先発教員約 30 名が、リーワード・コミュニティ・カレッジの OPEN DOOR を開きました。私もその先発教員の一人でした。それで、開校入学者数は期待していました 650 人を大きく上回り、1,700 名でした。設備はまだ建設中。最初の数年は古い小学校の木造小屋での出発でした。そうして私たち教職員全員は、自分たちが持っている専門的な職と同時に、このコミュニティ・カレッジの周りにあるコミュニティを知るという責任をうけました。ここで「Get know your community.　Go out into you community.」と言う掛け声を受け、私たちは入学者を仲間として教育改革の精神で積極的に地元の人々の集る場所でライオンズクラブとか、ロータリークラブとか、ビジネス、学校、教会を訪問し、いろいろなアクティビティに参加してコミュニティのメンバーズとなりました。訪問者・客ではなくてメンバー・参加者・仲間として地域の人々と付き合いました。目的は学生募集ではなく、地域に暮らす人々と楽しく築く関係・絆、お互いに価値がある繋がりの機会を築くことが主でした。そのうちに学長も私も含めて教職員の何人がその地域に住むことにもなりました。新しい Leeward Community College では、入学者以外に地元の人々も気楽にカレッジに出入りして、いろいろなイベントに参加して下さって、これは“マイ・カレッジ”だという感覚を持ち、気楽にカレッジに来てくれました。カレッジ側でも、毎年新学期には新教職員には「Getting to know your community」という地域バス巡りがオリエンテーションの一部として行っていました。

「多様なコミュニティとの繋がり」（Slide11）

多様なコミュニティに対して、コミュニティ・カレッジの役割はカレッジとコミュニティの間だけではなくて、その地域内でのネクサス（nexus）繋がり役、 と言われてもいます。その他に、仲介者（middleman）とか、連携者（connector）、進行者（facilitator）といろいろな面で貢献するということがコミュニティ・カレッジの役割だと考えられます。
いろいろな形で、カレッジの教職員とコミュニティのメンバーが共同で、繋がりを築きあげます。

その例の一つとして諮問委員会、Advisory Committees, について説明致します。各コミュニティ・カレッジでは学部及び運営のすべての段階において、コミュニティ・カレッジの諮問委員会が設立されまして、そのメンバーから常にアドバイスを受けて、逆にコミュニティ・カレッジからは、いろいろな学内に関する情報や状況報告を伝えて説える２方向のコミュニケーションを繋ぎ上げます。もう一つの繋がり、コネクションとは、カレッジの人事的なことです。それは、専門者教授（Practitioner-Professors）と呼ばれて、地元の関連分野で現職の人々が非常勤としての授業を担当をするだけではなく、その学科・学部の正式な教員チームの一人として、多様な形で学内の教育活動に参加・貢献しています。もちろん、彼らは地域のビジネスとカレッジの共同活動にも貢献しています。他の教育機関との繋がりも重要なことです。この事については、のちほど説明いたします。
各カレッジの報道部からは学習者向きの指導情報を発表したり、カレッジの情報資料は必ず地域についての情報や説明を盛り込んでいます。例えばアメリカのコミュニティ・カレッジのアクレディテーション自己評価報告書の中には、必ずそのカレッジが属している地域についての紹介、詳しい

説明も含まれています。

「教育関連のコミュニティとの連携とカリキュラムの共同開発」（Slide 12）

多様なコミュニティの繋がり、コネクションの中で、特に重要なコネクションとは、他のカレッジズや大学、それと地域の高校との連携です。それは言うまでもなく、学生の教育目的の達成を支援するために非常に重要な繋がりであります。できるだけ多くの高校生が無事に卒業をして、コミュニティ・カレッジズ入門を第一歩として、より高いレベルでの教育を受け、二年制カレッジ以上の広範囲にわたる高等教育に挑戦する機会を与える事も、コミュニティ・カレッジの重要な役割のです。その目的を達成する方法として教育分野コミュニティ内の繋がりとして、カリキュラム調整、転入学、同時履修などが共同的に行われることが不可欠であります。その中で一つの効果的な繋がりとは、コミュニティ・カレッジズと高校の共同活動の Early Admission 早期入学制度です。これは能力のある学生が、高校授業と同時にカレッジのコースも履修するということです。もう一つは AP アドバンス・プレスメントといって、高校生が大学レベルの授業、あるいは試験を受けて、大学入学後に基礎的なクラスを受けずに、その上のレベルのクラスを履修することができるという形にもなっております。

「準学士号」（Slide 13）

準学士号はカレッジが授与する学業上の資格であり、各コミュニティ・カレッジの信頼性が関わっています。全国的にアメリカのコミュニティ・カレッジズではこの点について注意深い関心、こだわりを持っています。コミュニティ・カレッジズにとって準学士号は各カレッジの理念、方針に合致し、カレッジに認証評価を与える外部機関の条件を満たすものであります。各学位が学術的な基準や学習目的の度合いとなっているかも注目され、さらに学位を得た結果、学生に何ができるか、何が期待されるかの土台と成っているかにも焦点を合わせております。また、利害関係者にとってこれらの「学位内容」が明確であることが重要です。すべての準学士号の修得には、必修科目の履修が必要で、その履修科目の累積 GPA が 2.0 以上となっています。

「準学士号の種類：ハワイのコミュニティ・カレッジにおいて」（Slide 14）

このスライドに表されているのは、ハワイのコミュニティ・カレッジズにおいての準学士号の種類の幾つかです。最初は AA、Associate in Arts で、これは準学士号で、一般教養、専門職業準備教養の分野で、大学レベルの科目、少なくとも 60 単位が必要、４年制大学への編入が可能。

次は、AS、Associate in Science 、準科学士号で、専門職技術系分野の雇用に備える、あるいは科学技術、数学などの学士号修得課程の編入が可能である学位です。

その次は AAS、Associate in Applied Science 準応用科学士号であり、専門職、技術職分野で、雇用されるに必要な実力と技術を習得し、4 年制の大学の編入は目的とされてはいないが、大学レベルの科目が含まれていることもあります。

最後に特色がある準学士号は ATS、Associate in Technical Science、技術系の準学士号です。特定の職業、技術の資格を習得し、従来の境界を越えて、台頭する分野の雇用が繋がっております。これには、特別な訓練を必要とする企業、産業、雇用主に認知された教育目的があることが必要です。

「例とした準学士号」（Slide 15）

例として、ハワイ大学コミュニティ・カレッジズの 2 つの準学士号を紹介いたします。

ひとつは ASNS（Associate in Natural Sciences）自然分野準学士号です。これはカピオラニ・カレッジにおける、科学研究中心のコース STEM という、必要条件を満たした 4 年制大学の編入に繋がる準学士号です。これについては後ほど詳しく説明いたします。

次は AAT（Associate of Arts in Teaching）という準学士号です。これは教育分野準学士号で、リーワード・コミュニティ・カレッジとハワイ大学のマノア校の教育学部の間に設定された、単位互換編入が可能の準学士号であります。この 2 年制・4 年制パートナーシップは、現在のハワイ社会のニーズに応じる必要なハワイ大学内の連携です。そのニーズとは、ハワイ州にはさまざまな社会の状況によって、公立学校の講師の募集、雇用、報酬が極めて難しい地域があります。オアフ島の西海岸部と北海岸の地方は、適切な資格を持つ教員数の欠乏状態になっているコミュニティです。そこで、このコミュニティに属するリーワード・

コミュニティが地域住民達が適当な教員資格を獲得する機会を与えたいとして、長年かかってマノア校の教育学部とようやく作り上げた、本当に大事なハワイ大学内のパートナーシップです。

「STEM：学習研究」（Slide 16）

先ほど紹介いたした STEM とは Science, Technology, Engineering, and Mathematics（科学、技術、工学、数学）の分野の共同的チームティーチング、チームラーニングという環境で行われている研究中心の準学士号コースです。2007 年にカピオラニ・コミュニティ・カレッジで開始され、取り組みとは学生中心、彼らの質疑応答に基づく学習コースで、現代の話題、先進の実習室を駆使する研究コースで、それを URE(Undergraduate Research Experience)と位置付け、厳しい学習基準と定員制を組み入れ、4 年制大学との単位交換，編入の道筋が構築されたコースです。目的はできるだけ大勢の学生を、4 年制大学の科学技術、工学、数学にかかる学位を獲得する、編入に繋がる教育経路です。結果としては、STEM 分野関連の 2 年制―4 年制度転入率がわずか増加し、2007 年度の 40 名から、2008 年には 150 名、2009 年には 220 名、2010 年には 420 名、2011 年には 600 名、さらに昨年 2012 年には 800 名の学生がカピオラニ・コミュニティ・カレッジからマノア校の科学関係の分野に編入しました。この学生の多くは、準学士号を修得する以前にも 4 年制大学に編入する資格も持っていました。そうした学生達には、単位修得状態の引継ぎプログラムを設けて、4 年制大学を修了する必要な単位、学士号をもれなく獲得して、同時に準学士号も授与するということも図っています。更に学生たちが国内、国際のレベルのセミナーで協議会に参加したり、プレゼンテーションを行う機会も確認されます。こういうプログラムを築き上げるには、一番肝心なことは、教えることの熱意がある研究者を雇用し、この方達の研究も支援するということです。

「優勝した STEM プログラムの学生」（Slide 17）

この夏、私がハワイに帰っていたある朝、地元の朝刊を開いたところ、第 1 面に次のような記事の見出しがありました。*「カピオラニ・コミュニティ・カレッジ、小さなカレッジ、科学の最強チームとして胸を張る。Kapiolani Community College：A Small College, A Powerhouse in Science」*。この記事は、7 人のカピオラニの学生チームがテキサス州で行われた NASA の CanSat 協議会に最優秀に輝いたと報じていました。その学生たちの写真も大きく表されていて、この記事のリードはこう書かれていました。*「カピオラニ・コミュニティ・カレッジはアラン・ウォンズ（Alan Wong）のような、世界的なシェフを輩出することで、一番よく知られているけれども、他の分野でも目覚ましい結果をあげています。全国的な科学協議会で、四年制大学のチームとしのぎを削り、しかも勝利を収めた」ということです。*この CanSat 協議会には、筒形の衛星を作って、その衛星を 2,000ft、600m の高度に打ち上げ、そこからデータを地球に発信し、その後、衛星を地球に戻すことです。その中には生卵を入れて打ち上げ、その後の衛星の着陸に戻す時に、中に入っていた卵は割れてはいませんでした。この協議会では、衛星打ち上げの結果のみならず、衛星をデザイン、調査結果の内容、100 ページに及ぶ報告書、そしてチームなどの側面から厳しく判定されました。また、カピオラニの学生たちは、アロハスピリッツの面から称賛もありました。というのは、その協議会でインドのチームが米国に来る途中に、調査資料のいくつかを紛失してしまったので、KCC の学生たちがそのインドのチームを助けようとしたということも報告されていました。

「系統的学位プログラムの開発と評価」（Slide 18）

コミュニティ・カレッジズも含めて、ハワイ大学ではすべての資格取得のプログラムは、開発と設定に向けて踏み出さなければならない、継続的な質保証（quality control）、評価管理（assessment)のステップを踏まなければなりません。それで各カレッジではこのステップを注意深く実行しています。その責任は、各カレッジの学長のもとにあります。その下で副学長兼教務部長が教員をリードして、詳細な計画、発展、評価の責任を果たします。この評価管理のステップには学内だけで行うのではなく、地元のコミュニティのさまざまなステイクホルダーとも幅広く、コミュニケーションを図り、協議をすることも必要です。ここに表されている発展の階段では、はじめは新規 New プログラムとしての初期承認、次に暫定(Provisional)プログラムとしての審査期間

がおこなわれ、その結果で正式に(Established)プログラムとしての最終承認を受けることとなっています。

「系統的な学位プログラム発展と評価：調査の階段」（Slide 19）

一つの準学士号プログラムが、暫定(Provisional)から正式のプログラムに向かう、申請書、臨時報告書の条項ですが、この報告書にはいくつかの状況を報告しなくてはいけません。一つはプログラムの構成、その中には一般教養と科学のコース、および 60 単位がきちんと入っているかということも明確にします。次は学生の成果を明確にすることで、学生の学習状態、入学者の増加とか減少、学生数の維持率、メンテナンス、地域密着型の経験に関するデータを集め、それを分析します。その他にコスト、正味原価と予算、教員のプロファイル、平均クラスサイズ、特にスモールクラスサイズ（履修者 10 人以降のクラス）も注目されます。そうしてプログラムの完全性を示したデータも提供しなければいけません。その他にプログラムの成果と学位の目的が一致しているか、ほかにカレッジ内と全ハワイ大学システム内の基準と使命にも一致しているかも確かめます。それ以上にハワイ大学のカレッジズでは、すべての学位を授与するプログラム、暫定はもちろん、正式プログラムもこの年次行政評価を受けなければなりません。

「系統的学位プログラムの健康診断」（Slide 20）

ハワイのコミュニティ・カレッジズでは、すべての学位授与のプログラム（暫定･正式決定）がこの年次業績評価を受けなければなりません。一般的にこれは年次健康診断(Annual Health Check-up)と呼ばれています。これには、プログラムの管理運営等の現状と、重要なポイントに関するデータが担当教員または学科長から教務部長に提出され､そのプログラムの業績評価に基づき、プログラムが完全であるかどうか、注意や改善が必要かということを評価されます。そして、現状に注意や改善が必要な場合には、改善策が提出されなければいけません。もしも継続的に注意改善が必要になる場合には、プログラムの中止が適用されることもあります。これを図るのには 2 つのカテゴリーのデータも提供して、検討されます。これは需要を測る(demand data)であり、入学者数、履修可能なポジション数、提供される授業数が含まれています。もう一つの情報データのカテゴリーは効率(efficiency)を測る情報でありこれには､平均的なクラスサイズと小人数クラスサイズ、クラスの充填率、学職員と学生数の比率、そして予算とのコスト情報データが提出され、きめ細かく調べられています。

「教職員：学内部のコミュニティ」（Slide 21）

次は教職員について、簡単にお話ししたいと思います。教員とスタッフは最も重要なコミュニティの一つです。学内部のコミュニティです。この学内部のコミュニティ一人ひとりが、コミュニティ・カレッジの中核となるオープンドア使命を自ら受け取り、賛成し、傾倒することがコミュニティ・カレッジズの成功のカギです。この学内部のチームメンバが､「自分はコミュニティ・カレッジの教育者である。 I am a community college educator.」 という共通的なアイデンティティとプライドを持つことが必要です。そして、教職員の資質を確保するには、全学的及び組織的に適当な人事方針、運営、事務法、ガイドライン等を明確にして、正常に機能することが、最も必要であります。これこそが私のコミュニティ・カレッジズ総長の時代の一番難しい刺激的な経験でした。暴れる虎の背中に乗っているような気分で 20 年を過ごしました。言うまでもなく、報償、およびに表彰のインセンティブ制度も確立、維持し、それも明確に実行することも必要でありました。一つの例とは、ハワイ大学では 10 校、各課から選ばれた教員が毎年送られる優秀教育賞(Excellence in Teaching Award)です。この授与者は＄1000 ドルの現金とハワイ大学理事会の名誉勲章が与えられるとともに、一般社会に向けて大々的に発表され、注目を浴びています。もっとも肝心なことはこのような表彰及び昇進などの結果を一般コミュニティに向けて広く公開されることです。

コミュニティ・カレッジズの教職員の専門資格と、その特徴については、２５年の３月に行った国際セミナーで報告をいたしましたので、もしご興味をお持ちの方は、ご連絡ください。

「無単位の教育課程とコミュニティ・サービス・プログラム」（Slide 22）

次に、Non-credit Education and Community

Service Programs についてご説明したいと思います。アメリカのコミュニティ・カレッジには学部(学位資格提供の教育課程)と同位（equal level）の地位がある、無単位教育サービス提供の生涯教育部が必ず設けられています。一般的にこれは Community Services and Continuing Education、CSCE, と呼ばれて、カレッジの主なアウトリーチの腕となっています。CSCE はコミュニティ・カレッジの企業的（enterprising）な分野であり、地元のコミュニティとの共同プログラムや活動の窓口となり、柔軟性と創造力(flexibility and creativity) を沸かす楽しい、“Center of Community, COC 的”な活動を行う教養制度です。主に、公立機関のアメリカのコミュニティ・カレッジでは、CSCE の資金は自活、自給的制度となっています。それにも関らす CSCE のプログラムは、単位を修得できる教育課程よりも参加者数が多く、カレッジの重要な資金源ともなっています。ちなみに私が最初に与えられた管理役は、リーワード・コミュニティ・カレッジの CSCE の部長であって、1973 年から 76 年の間にいろいろなコミュニティと知り合い社会活動の経験を味わうことができました。カレッジの劇場の経営、学部の教育センターの設立との経営、カレッジの生涯広報課や国際交流担当も経験する事ができました。私にとっては、この時代が一番張り合いがあったと感じており、楽しい役割でしたと懐かしく思っています。

「コミュニティのファーマーズ・マーケット」（Slide 23）

Kapiolani Community College では KCC Farmer's Market と呼ばれる、人気の高いオープン・マーケット（Open Market）が、毎週土曜日の朝 7 時半から 11 時まで、有名なダイヤモンドヘッドの麓のカレッジの駐車場で賑やかに行われています。ワイキキからもバスや歩いてでも便利なので、地元の人々と観光客が楽しくふれあうパワースポットにもなっています。ここで多くの地元の農業家、レストラン、または主婦たちが作った製品や、商品を紹介して、売れるかどうかを試す場所にもなっていますし、新しいレシピや食品が、どう評価を受けるかということも試すこともできます。このイベントは地元の農業協会とカピオラニ・カレッジの調理専門学部との共同提供で行われて、今年でもう 10 年目の効果的な活動を続けているという、カレッジとコミュニティのパートナーシップです。そして、このファーマーズ・マーケットのテーマは*「Eat Local！ ハワイの食材は地元から！」*という掛け声で、ハワイの経済発展にも貢献していると広く評価されています。地元の人々、観光客にとっても評価され、現在はハワイ州のあちらこちらで、同じようなファーマーズ・マーケットが開始されています。

「まとめ：COC アメリカ版」（Slide 24）

このお聞きにくい講演が、今日の研究テーマ「COC と短期大学」について役に立ったかどうかは分かりませんが、繰り返してお伝え残したい事は教育使命の重要性です。アメリカのコミュニティ・カレッジにとっては「オープンドア使命」（Open Door Mission）が一節として、各カレッジとそこに所属する人々、地元のコミュニティとそこに生きる人々、全員が共通的にこの使命を受け取り、持ち、それを基にして活動、教え、学び合うことです。各コミュニティ・カレッジ自体が COC (Center Of Community) であります。アメリカ版の COC とは、学内一部のプログラム、あるいはそこで行われる活躍ではなく、各カレッジ全体が COC の姿勢を持つことが普通であります。「コミュニティ」という言葉は単なる名前でなく、元来持って生まれたカレッジの本質を改めています。私たちに対しては、「COC」の意味は「College Of the Community」であります。

1990 年代に AACJC：American Association of Community and Junior Colleges、が「コミュニティを築く：Building Communities, A Vision for a New Century」とした 21 世紀の新しい時代を目指すビジョン・レポートを全国的に提出しました。これは将来のコミュニティ・カレッジの役割を検討する委員会の報告書でした。私もその委員の一人でした。この報告書のまとめには次の発言がありました。

「次世代のアメリカ人は、ますます複雑になる世界の中で、生涯学んでいかなければなりません。国のコミュニティ・カレッジは、新しくクリエイティブな方法を採用して、人々のカレッジという伝道的な使命を果たさなければならないのです。そして最後に、コミュニティとは利益を得る地元の地域環であるだけではなく、教室内で、キャンパス内で、そして周りの世界で作りだ

される境である。Community must be defined not only as a region to be served, but also as a climate to be created in the classroom, on the campus, and around the world.」

「最後のことば」（Slide 25）

「日本式のコミュニティ・カレッジ」ということを私はよく耳にします。「日本式のコミュニティ・カレッジ」、その中核使命は何でしょうか？これで私の下手な講演を終わらせていただきます。Thank you and Aloha!